

# 住人十色

第 193 回

## 「明日」を思える平和の尊さを、今 真つすぐに詠んだ一首が皇居・松の間へ

梶野 晴さん(松山西中等教育学校2年) 川中2



◎思い出が詰まった立川小学校の前で撮影。「大好きな地元の自然も詠んでみたいな」と笑顔の梶野さん。

八〇年前 ずっと小さい 女の子  
この子に明日は 来なかつたんだ

新春の皇室行事「歌会始の儀」が開かれ、梶野晴さんの短歌が佳作に選ばれました。今年の題は「明」。一般応募1万4600首のうち佳作は14点で、入選作とともに天皇皇后両陛下の元へ届きました。梶野さんは榮譽を喜びつつ、「入選して詠み上げられたかった」と悔しさもにじませます。

小学校で短歌を習った梶野さんは「俳句のように季語がなく、言葉探しが難しい」と話します。「明日」の一語に続いて想像したのは、小学校の修学旅行で訪れた福岡県・大刀洗平和記念館。「戦没者の顔写真が並ぶ中に、3歳の女の子もいた。ずっと心から離れなくて」と振り返ります。言葉を並べ、推敲しようとしたところ「どの言葉も代えられなかった」と梶野さん。その真つすぐな作品に「今を生きる14歳の詩」「命あつてこそ明日を思う。胸に刺さった」と、多くの反響が寄せられています。

梶野さんは自宅から往復3時間かけて通学し、部活動にも打ち込んでいます。「大変でしょ、と母には言われる。でも学生時代の苦労は今しかできないし」と笑います。「頑張った経験と頑張れる自信がある。作品にも生きたかな」と、持ち前の明るさを見せてくれました。

### 編集 幸記

▽広報担当者向けの講演に参加しました。エンタメ業界で活躍する講師の「A-の時代でも、感情の振れ幅を予測できるのは人間だけ」という言葉が印象的でした。A-に負けない、心に響くような広報を作りたいなあ(史)  
▽広報係になって初めてインタビューをしたのが、当時小学6年生の梶野晴さんです。当時の写真を何度も見返して「ああ、大人っぽくなってる(泣)」とうれしくなりました。超ポジティブな晴ちゃんを見習って、私も成長しよう！(花)

町内無線放送が聞き取れなかった場合はお電話ください。

通話料無料の  
フリーダイヤル  
☎0120(44)2130

